令和８年度　　北大津高等学校　学校評価

本年度の重点目標

・「心豊かで逞しい人間の育成」を目指し、社会の一員としての規範意識を醸成し他者を思いやる心を育てるとともに、確かな学力を備えた生徒の育成に努め、一人ひとりの進路希望の実現を図る。
・本校の良さを情報発信し、保護者、地域との連携を深め、全ての生徒が安心・安全に学校生活を送れるように努める。

領　域	重　点　評　価　項　目	中間評価(10月)	総合評価（３月）	
		自己評価	自己評価	学校関係者評価
1　学校経営	学校の方向性を校内外に示し、教員が一枚岩となって「心豊かで逞しい人間」の育成に努めている。	A		
	直面する教育課題に迅速に対応し、教育改革に前向きに取り組んでいる。	A		
2　学習指導	分かりやすいシラバスを作成し、計画的に教科指導に取り組んでいる。	A		
	生徒の学力を正確に把握し、授業内容・形態を工夫して理解しやすい授業をしようと努めている。	A		
3　生徒指導	基本的な生活習慣の確立を目指す指導を適切に行い、自主的に活動する力を育てている。	A		
	いじめ問題へは関係機関と連携し、未然防止・早期発見・早期解消に努めている。	A		
	学年団、保健室等との連携を密にし、問題行動や教育相談への迅速な指導体制が充実している。	A		
4　進路指導	３年間を見据えた指導体制が充実している。	A		
	進路についての情報提供や面接指導、論文・作文指導が充実している。	A		
5　特別活動等	部活動が活発で、指導も適切になされている。	A		
	学校行事を充実させ、生徒の自発性を育成することに努めている。	A		
6　学校図書館	図書の整備や読書案内を行い、入りやすく借りやすい図書館の雰囲気づくりに努めている。	A		
7　保健・安全指導	交通安全指導や避難訓練など、事故防止、防災・危機対応について指導している。	A		
	保健指導や健康相談を通して、生徒の心身の健康に関する保持増進を図る力を育てている。	A		
8　人権教育	人権委員やＬＨＲなどを活用し、生徒の人権意識を育成している。	A		
	特別支援が必要と思われる生徒の情報を共有し、必要な支援を行う体制づくりに努めている。	A		
9　環境教育	日頃の清掃活動などを通して、身の回りの環境美化に対する意識を高めるように指導している。	B		
	ごみの分別指導などを通して、資源再生に対する意識向上に努めている。	B		
10　事務・管理	施設・設備の状況を常に確認し、その都度適切な措置を講じている。	A		
	生徒や保護者への連絡は、分かりやすく丁寧に行うよう努めている。	A		
11　その他 学校の取組	開かれた学校づくりを目指し、保護者への情報発信に取り組んでいる。	A		
	中学生・保護者・地域や関係諸学校等を対象に、学校の魅力を積極的にＰＲ・発信している。	A		

（注）・評価表の見方：　６月　学校の教育目標に基づいた重点評価項目の公表
１０月　中間評価（自己評価）の公表（８月までの教育活動に対する中間評価）ＡＢＣＤの４段階評価で示す。
３月　総合評価（自己評価・学校関係者評価）の公表（年間の教育活動に対する総合評価）ＡＢＣＤの４段階で示す。
・自己評価は教職員による評価。学校関係者評価は、保護者・学校評議員等より構成された評価委員会等が自己評価の結果について評価することを基本として行う評価。
・ＡＢＣＤの基準については、評価項目の内容が、十分に達成できた場合（達成度80%以上）はA、おおむね達成できた場合（達成度60%以上80%まで）はB、あまり達成できていない場合（達成度40%以上60%まで）はC、達成できていない場合（達成度40%未満）はDとする。

学校のＵＲＬ：https://www.kitaotsu-h.shiga-ec.ed.jp/